

和地ひとみレポート No.297

(仮称)モノレール沿線まちづくり構想(素案) 延伸実現による東大和市の発展は…

■2市1町で構想(素案)を作成、公表

…先月(H30年10月)、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町の2市1町で作成し、公表された『(仮称)モノレール沿線まちづくり構想(素案)～交通・暮らし・交流～』(以下、モノレール沿線まちづくり構想と表記)。この公表を受け、10月16日(火)～11月14日(水)の間、2市1町が共同でパブリックコメントを実施しました。結果、東大和市においては、意見の提出は0件とのことでしたが、武蔵村山市、瑞穂町に提出された意見については、寄せられた意見の概要とその意見に対する2市1町の考え方などとともに、平成30年12月中旬を目途に2市1町がそれぞれの公式ホームページで公表する予定とのことです。

■多摩都市モノレールの延伸

…多摩都市モノレールは、多摩地域南北方向の公共交通網の充実、核都市間相互の連携強化、自立性の高い地域形成を図ることを目的として整備されているものです。事業主体のインフラ部分(支柱や軌道桁)は東京都建設局、インフラ外部(運営基地や変電所、車両などに関わる部分の建設の負担と運行)は、多摩都市モノレール株式会社が行っています。

…全構想路線は約93kmですが、そのうち立川北～上北台間(約5.4km)を平成10年11月、多摩センター～立川北間(約10.6km)を平成12年1月に開業。

現在は、多摩センターを起点とし、高幡不動を経て立川に至り、玉川上水を通して上北台に達する延長約16kmの区間で、多摩市、八王子市、日野市、立川市及び東大和市を通過する形で運行されています。

このように、多摩都市モノレールは昭和56年度の多摩都市モノレール等基本計画調査報告から37年経過した現在まで、その全構想路線の約17%のみが完成している状況です。

…まだ、モノレールが運行していない構想路線のある自治体では、この延伸の早期実現を願い、東京都に様々な形で要望しています。特に、隣接している武蔵村山市には鉄道の駅がない状況のため、この延伸の実現によりまちづくりが大きく変化することになります。

…現在は終点のような形になっている東大和市の上北台駅から先の瑞穂町のJR八高線の箱根ヶ崎駅までの延伸については、平成28年4月に国土交通大臣の諮問機関である交通政策審議会から「東京圏における今後の都市鉄道のあり方について」の答申では『多摩地域の主要地区間のアクセス利便性の向上に資し、課題はなく、事業化に向けて関係地方公共団体・鉄道事業者等において具体的な調整を進めるべき』とされたため、この区間は実現性が高い延伸路線となっています。

…実際、モノレールの導入空間となる新青梅街道(上北台から箱根ヶ崎までの区間約6.7キロメートル)は東京都が平成17年3月11日に、交通渋滞解消の視点



から、現在の幅員18メートルから30メートルに拡幅整備する都市計画変更を行っており、また、平成18年4月には、「多摩地域における都市計画道路の整備方針(第三次事業化計画)」の中で、新青梅街道を優先整備路線(今後10年間で優先的に整備される路線)に選定しています。



↑延伸は上北台駅～箱根ヶ崎駅、多摩センター駅～町田駅、多摩センター駅～八王子駅が計画されています

■モノレール延伸後の沿線のまちづくり

…このような状況を受け、延伸されたモノレール沿線のまちづくり構想の素案を2市1町でまとめた『(仮称)モノレール沿線まちづくり構想(素案)～交通・暮らし・交流～』ですが、本構想では、下記の手順でまちづくりの方向性を検討するとされています。

- ①モノレールの特性とまちづくりで検討すべき視点(交通・くらし・交流の視点)
- ②沿線の問題点・ポテンシャルの整理
- ③取り組むべき課題の設定(交通利便性の向上、良好な住環境の形成、活発な交流の実現)
- ④課題解決に向けた対応方針
- ⑤対応方針を踏まえた施策の方向性
- ⑥施策の実施時期
- ⑦施策の展開

(裏面に続く)

『(仮称)モノレール沿線まちづくり構想(素案)』より

【構想策定の目的】

交通政策審議会答申第 198 号において「多摩都市モノレール延伸(上北台～箱根ヶ崎)」として位置づけられた地域は、農地が広がり、狭山丘陵などの自然に恵まれているとともに、大規模商業施設や沿道サービス型の店舗が立地し、子育て環境なども充実しています。一方、交通の不便な場所が多く、人々の移動や交流の手段が限られ、地域の持つ魅力が十分に活かされていないことから、モノレールの延伸実現を契機として沿線のまちづくりを一層推進し、その効果を東大和市、武蔵村山市、瑞穂町の2市1町に広く波及させ、魅力をより引き出すことが重要です。このため、「モノレール沿線まちづくり構想」は、モノレールの延伸後を見据え、地域のポテンシャル(潜在的な力)を最大限に発揮するためのまちづくりの方向性を明らかにすることを目的とします。

【構想における「沿線」について】

本構想における「沿線」は、原則として、多摩都市モノレール延伸が想定されるルートから概ね1km程度のエリアとします。なお、本構想の対象は駅周辺など沿線が中心ですが、2市1町の全域に関わる施策などもあるため、限定するものではありません。

【延伸区間(上北台駅～箱根ヶ崎方面)の概要と延伸効果】

事業費:約800億円

延長:約7.2km

延伸による効果:「交通利便性の向上」「まちの活性化」
「多摩南北の交流人口の増加」など

■現況と課題、そして方向性に向けた施策

…また、「モノレール沿線まちづくり構想」では、現況データを整理し、問題点とポテンシャルを明示(右上の表)。そして、この現況を踏まえて取り組むべき課題を「交通利便性の向上」、「良好な住環境の形成」、「活発な交流の実現」の3点とし、それぞれの課題に向けた対応方針を設定。その方針を踏まえた施策の方向性も示されています。

…各課題、それぞれの対応については、各自治体が策定している“まちづくり”の構想に関連し、行政主導で取り組まねばならないものも多くなっています。これらの取組みは、その取組み方や実現性により、将来のまちの姿が大きく左右されるものだと思います。

…内容の中で興味深いのは「活発な交流の実現」で示された以下の3つの重点施策です。

◇**企業や大学などの誘致:**土地情報の提供やインセンティブの付与などにより、企業や大学などの誘致を促進。

◇**創業支援の充実:**資金融資のあっせんや創業相談などにより、企業の創業を支援し、新たな雇用を創出。

◇**市民農園、観光農園、観光農業の充実:**クラインガルテン(滞在型施設がある賃借型市民農園)や観光施設との連携により、都市農業を振興。農家レストランなども検討。

項目	問題点(●)とポテンシャル(○)
交通	●バスルートが多様で複雑 ●バスの運行間隔が長い、定時性が確保されにくい ●自動車の利用率が高い
人口動向	●今後 30 年で人口が微減し、高齢化率が上昇する予測
生活圏	○区部や立川市への通勤・通学が多い
立地	○東京駅から約 30～40km 圏内 ○中核拠点のある立川市に隣接 ○周辺部の道路ネットワーク、鉄道網が一定程度整備されている
土地利用	○土地の高度利用の余地がある
公共施設	●公共施設の老朽化及び維持管理、再編が今後課題となる
自然環境 農業	○狭山丘陵等の公園、緑地が豊富 ●農地、営農者が減少している
商業	●商業系用途地域の割合が低い ○大規模商業施設が立地している
地価 住宅	○地価が比較的低い ○一定の新築需要あり
交流 観光	●延伸区間のホールの稼働率が低い ○集客力の高いイベント、施設がある

…この3つの重点施策はとても魅力的に感じますが、既にモノレールの駅があり、駅周辺の開発が一定程度進んでいる(≒住宅も多く大きな土地がない)東大和市としては、新たな施設建設を伴う施策の実現性は、かなり困難な感じがします。そうなった場合、それら新たな施設、例えば、企業や大学が延伸した沿線に来た場合、東大和市はそこに通う人のベッドタウンとして発展するということになるのでしょうか。

■通り過ぎるまちにならないために

…公表された「モノレール沿線まちづくり構想」の内容は、2市1町で作成しているものの、やはり新駅が誕生する武蔵村山市、瑞穂町の積極性が感じられました。現在は、終点、始発となっている上北台駅ですが、例えば家を選ぶ際、不動産業者さんから良く言われる「始発だから混まずに座っていただけますよ」という利点は、延伸後はなくなります。

…もちろん、上記の表の○で示されたポテンシャルは東大和市にとってもポテンシャル。今回の構想を読み、モノレール延伸に大きな期待を寄せ、これからのまちづくりを1から考えて前向きに取り組む武蔵村山市と瑞穂町の取組み姿勢に負けない姿勢で東大和市もモノレール延伸後のまちづくりを考えなければならぬと強く感じました。東大和市は上記表で「中核都市」とされている立川市に一番近いということは大きなポテンシャル。モノレール延伸後、“通り過ぎるまち”となってしまうまいや、住みたいまち、訪れたいまちになるための構想を東大和市も独自で考えるべきです。

市政、議会について「自然体「ざっくばらん」にレポート。駅前配布するレポートは毎回、最新号です。

【プロフィール】「私たちの身近にある市政、市議会。伝えることがスタートだと思います。」

1970年 東京都北区生まれ。父の転勤で1歳から群馬県で育つ。幼稚園からカギっ子。リーダーシップを発揮し、小学校で児童会長、中学校でも生徒会長を務める。大好きな音楽を究めようと武蔵野音楽大学に進学、卒業。卒業後は群馬の山あいの小学校で臨時教諭として担任を2年勤め、新しい試みで授業を活性化させ「元気印の先生」として保護者・生徒から親しまれた。/「学校」の外の一般社会で挑戦しようとベンチャー企業の(株)シートゥーネットワーク(※スーパーマーケットを経営。店頭公開から一部上場、外資系企業に転換)に社長秘書として入社。のち店舗現場に異動、同社で初の女性店長となる。月刊誌『日経 WOMAN』のベンチャー企業で活躍する女性特集で取り上げられる。その後、人材開発部長を拝命。/『人を活かす』経営を学ぶため一念発起しカナダに留学。外から見た日本の将来に、漠然とした不安を感じる。帰国後は、不動産投資会社にて企画業務、税理士対応、広報、社員研修、組織活性化などに従事。2011年4月、初当選。現在2期目。顔の見える議員として、日々奮闘中。

東大和市 市議会議員

和地 ひとみ

■ 連絡先

和地 ひとみ事務所

HP: <http://www.wachi1103.jp>

✉ wachi_hitomi@cocoa.ocn.ne.jp

【電話・FAX】 042-516-8546

〒207-0005 東大和市高木3-274-2-102